

安全の手引き

イタリア生活を安全に過ごすために

イタリアは、日本に比べ、必ずしも治安の良い国とは言えません。その原因は様々ですが、犯罪組織の存在、違法薬物の蔓延、不法移民の増加といった問題が挙げられます。従って、イタリアで生活する場合には、日本にいる時以上に安全に対する意識を高めることが重要です。

ローマ、ミラノ、ヴェネチア、フィレンツェ、ナポリなどの観光地を中心にスリや置き引き、ひったくりなどの犯罪に遭う日本人の方々が後を絶ちません。こうした被害は皆様一人一人が防犯意識をしっかりと持つことにより、ある程度、予防することが可能です。

この手引きは、主としてローマで生活される方を対象に作成したものです。そのほかの各都市で生活される方々や、観光等の目的で短期間滞在される方々にも参考にしていただければ幸いです。また、外務省の海外安全ホームページ (<http://www.anzen.mofa.go.jp>) のイタリアの項でも防犯対策等について案内していますので併せてご覧ください。

この手引きに関するご意見等がございましたら、当大使館領事班までご一報頂ければ幸いです。

2019年1月

在イタリア日本国大使館

目 次

1. 防犯の基本的な心構え	
(1) 当国事情の理解	1
(2) 信頼関係の醸成	1
(3) 危険な地域・危険な時間帯	1
(4) 自分の身は自分で守る	1
(5) 安全対策は外部からわかるようにする	1
2. 防犯のための具体的な注意事項	
(1) 住居（家・アパート）探し	2
(2) 外出時	
買い物，レストランにて，ホテルにて	2
銀行にて	3
空港や，駅にて，地下鉄やバスにて，路上にて	4
列車内にて	7
3. 交通事情と事故対策	
(1) 一般的な交通事情	8
(2) 交通事故	8
(3) 車両通行規制ゾーン（Z. T. L）	8
4. 最近の治安状況	
(1) 組織犯罪（マフィア）等の存在	9
(2) 違法薬物の蔓延	9
(3) 不法滞在外国人の増加	9
(4) 国際テロ情勢	10
5. 緊急連絡先	11
6. 緊急事態に備えての心構え	12
7. 緊急時の言葉	13

1. 防犯の基本的な心構え

(1) 当国事情の理解

安全な海外生活を送るためには、まずその国の事情をよく理解する必要があります。生活習慣、国民性、社会環境はもとより、政治、経済情勢、対日感情、文化などについての理解が不足していたために誤解や摩擦が生じることがあり、ひいてはこれが犯罪被害につながることもあります。しかし、これら諸事情を理解することは一朝一夕にできることではありません。長い期間当国に在住されている方々の意見に耳を傾けるなどして、できるだけ早く当国事情を理解するよう努めていただきたいと思います。

(2) 信頼関係の醸成

イタリア人は人間関係を大変重要視する国民であるといわれています。アパートの上下左右等の隣近所の人たちや管理人等と日頃から良好な関係を維持しておくことは、万一の事態に際し、大変心強いものです。

(3) 危険な地域・危険な時間帯

どんな国でも、人気のない暗い通りや薬物中毒者等の集まるような場所など日常生活で危険と考えられる場所や時間帯がありますが、このように「危険」と言われている場所などには、特別の用事がない限りは「君子危うきに近寄らず」の言葉に従うべきと思われます。

(4) 自分の身は自分で守る

まだまだ無防備の方々が散見されます。日本の生活感覚のままでいることなく、常に周囲に気を配り、自己防衛意識を持つことで被害を未然に防ぐことができると思われます。

(5) 安全対策は外部からわかるようにする

安全対策には万全ということはないかもしれませんが、特別の事情が無い限り、対策がより厳重であればあるほど犯罪被害は減少すると言えます。また、十分な安全対策を講じているということが第三者からわかるようにしておくことも肝要でしょう。犯罪者も、罪を犯す際の危険度を最小にしようとするものです。自分が犯罪者だったら、どのような人を狙うかを考えてみることも防犯対策上有益であると思われます。

2. 防犯のための具体的な注意事項

(1) 住居（家・アパート）探し

治安の良い地域を選ぶことは言うまでもありませんが、通勤、通学の途中に治安の悪い区域を通過しなければならないようなところも避けるべきでしょう。

また、入居した後では、不都合な面があっても家主が簡単に応じてくれないことがあります。契約前に十分なチェックを行いましょう。

例えば、

- ・ エントランスは自動で閉鎖されるか？（手動の場合、閉め忘れから泥棒の侵入が容易となる）
- ・ 鉄格子、シャッターは設置されているか？また、問題なく昇降できるか？
- ・ 玄関の鍵は丈夫なものか？扉は防弾性など、十分な厚さが確保されているか？
- ・ 以前も貸し家であったか？（鍵を取り替える必要はないか？）
- ・ 門番（ポルティエーレ）は居るか？
- ・ 何階か？（地上1階、最上階は、泥棒が侵入しやすい）
- ・ テラス等に隣の住居との地続きがないか？（隣戸に入った泥棒が侵入可能）
- ・ 地域の環境は？（健全な住宅地域か？近くに警察署はあるか？）
- ・ 駐車場付きか？（盗難・車上荒らしが多いので駐車場付きが望ましい）

(2) 外出時

○買い物中

洋服や靴の試着中に、傍らに置いたバッグを盗まれるケースも多く見受けられます。店員がいるからといって気を許してはなりません。混雑した市場やのみの市などへは、最小限必要な金額以外は持参しない方が良いでしょう。

○レストランにて

食事中にバッグを背もたれに掛けたり、足元や隣の席に置いたりするのは、グループであっても禁物です。上着やコートのポケットに貴重品を入れたままコートかけに掛ける、或いはセルフサービスやビュッフェ等では、座席に貴重品を置いたまま食事を取りに行くなどは厳に避けるべきです。

また、ホテル内レストランにおいても、油断はできません。友人1人に貴重品を預け、トイレや食事を取りに行っている間に、友人が後方から声をかけられ振り向いた瞬間、他の犯人により荷物を持ち去られるケースも多くあります。

○ホテルにて

有名ホテルといえども、ロビーや廊下は屋外と同じと心得るべきです。チェックインやチェックアウトの際に足元やカウンターに置いたバッグ等を置き引きされるケースは後を絶ちません。また、部屋の中も決して安全とは言い切れません。誰かがドアをノックしても、相手が誰であるかを確認するまでは決してドアを開けないようにしましょう。従業員になりすました泥棒がベルを鳴らし、いろいろな理由（空調やバスルームのチェック等）を付けて部屋に入り、堂々と窃盗を働くケースもあります。この様な場合、フロントに電話をかけ事実確認をすることをお勧めします。

就寝時に泥棒に入られるケースもありますので、就寝時にはチェーンロックをかけ、無い場合にはドア止めを内側からかけておく等の対策が必要です。

また、ホテルの部屋にあるセーフティーボックスも安全とは言えません。セーフティーボックスに貴重品を入れておいたところ、セーフティーボックスごと盗まれてしまった、セーフティーボックスを開けられて貴重品を盗まれてしまったというケースも発生しています。セーフティーボックスが堅牢であるか、簡単に持ち去られるものではないか、確認されることをお勧めします。

○銀行にて

銀行又はキャッシュ・ディスペンサー（ＡＴＭ）で現金を引き出した場合、近くにたむろしている人物に注意しましょう。銀行内にはガードマンがいるから大丈夫と思っていると、外へ出てから後をつけられ、車の乗降やアパートの入り口で鍵を開けるときなどの一瞬の隙をついて鞆ごと引ったくられるというケースが少なくありません。また、キャッシュ・ディスペンサー（ＡＴＭ）を利用する際にも、背後から話しかけられ、気を取られた瞬間に現金を抜き取られるケースもあります。

なお、キャッシュ・カードによるキャッシュ・ディスペンサー（ＡＴＭ）の利用は、カードが機器内に吸い込まれ、戻ってこないトラブルがしばしば起こります。銀行へのクレームができる銀行の営業時間内の利用が無難です。

また、キャッシュ・ディスペンサー（ＡＴＭ）から預金を引き出した旅行者や在留者が、カード情報や暗証番号を読み取られ、預金を不正に引き出される事件が相次いでいます。この種の犯罪の手口は、何者かがキャッシュ・ディスペンサー（ＡＴＭ）に小型の機械を取り付け、カード情報を読み取り、クローンカードを作成すると共に、暗証番号を入力する際の手の動きを小型カメラで撮影して暗証番号を盗みとるなどといったものです。予防策としては、近くに人がいなくても暗証番号を入力する際には手元を完全に隠し番号を読み取られないようにする、現金を引き出

す際はキャッシュ・ディスペンサー（ＡＴＭ）周辺に不審な機械が取り付けられていないか十分確認する，なるべく銀行建物の中にあるキャッシュ・ディスペンサー（ＡＴＭ）を利用する等です。特に大金を引き出す際は，セキュリティーのしっかりした銀行内のキャッシュ・ディスペンサー（ＡＴＭ）を利用するようにしましょう。

○空港や駅にて

空港や駅は旅行者が多いため，彼らを狙う人物が，両替所付近や荷物の引き取り所等にたむろして，スリや置き引きの機会を狙っています。タクシーはタクシー乗り場で容易に見つかりますので白タクは絶対に避けて下さい。走り出してから法外な料金を強要したり，荷物を持ち逃げする，或いは不良ホテルに乗り付けて無理やり宿泊させる例もあります。

タクシーの中には，メーターが付いているにもかかわらず，メーターが動かず，到着後に通常より高い金額を請求される例もありますので，必ずメーターが動いているのを確認して，動かない等主張された場合には，そのタクシーには乗らず，他のタクシーを利用することをお勧めします。

○地下鉄やバスにて

ローマでもっともスリに遭う危険が高い場所の一つが地下鉄やバスなどの公共交通機関です。日本人が特に被害に遭う場所は，テルミニ駅、バルベリーニ駅及びレプブリカ駅などの主要駅です。地下鉄に乗り込む際に，後ろから子供達が押し込む様に電車に乗り，その際にポケットから財布等をスリ取る事件も発生しています。また，赤ん坊を抱いた女性が近寄ってきて，スリにあう事件も発生しています。さらに，カッターでバッグを切り，中の貴重品だけを盗るケースもあります。混雑している車内，特にドア付近が危険です。混み合っている車両は避け，止むを得ず車内が混み合っている車両に乗車した場合には，必ず手荷物を自分の前に抱え，常に注意する必要があります。

○路上にて

<集団スリ>

赤ん坊を抱いた女性や子供達が近づき，金品を抜き取る手口は減る気配を見せません。手を差し出しお金をくれと言いながら近寄り，相手の注意を赤ん坊や手に集中させ，その本人及び第三者から見えない角度からバッグ内に手を差し込み，貴重品をスリ取る事件も発生しています。浮浪者風の子供や赤ん坊を抱いた女性

が近づいてきたらバッグ等をしっかり抱え、明白に拒絶する態度を見せる必要があります。

<引ったくり>

オートバイに乗った2人組による引ったくりは、強引に犯行を行うため、被害者は路上に倒されて大怪我をする場合があるので要注意です。歩行中に背後から、あるいはバスや車の乗降の際の隙をみてバッグなどを奪い取ります。ローマ市内でも散見される他、特にナポリを中心とした南イタリアで多く発生しています。多額の現金等、貴重品を持ち歩かないようにするだけでなく、バッグや買い物袋等を持っているときは、歩行中は車道側ではなく歩道側に持つ、バスや車に乗降する際はバッグを抱える等の注意が必要です。

<睡眠薬強盗>

英語や日本語を話し、外国人旅行者を装うなどして親しげに近づいてくる者を信頼するのは禁物です。意気投合して一緒にバルへ行き、出された飲み物を飲んだらたちまち意識を失い、気づいた時は病院のベッドで貴重品は全て無くなっていた、という事例が発生しています。また、目が覚めたら怪我をしていたという場合もあり、特に注意が必要です。

<ぼったくりバー>

紳士風の者が親切な態度で話しかけてきてピアノバーなどに誘い、飲食した後で、店から法外な料金を請求されるケースがあり、特に男性旅行者に被害が多いようです。また、その手口の一つとして、路上で地図を広げ、観光客を装い、英語等で道を尋ねてきます。親切のつもりで道を教えたり、一緒に観光地へ行ったりするとその後で、「お礼に私のおごりで飲みに行こう。」と誘われ、ついでに飲食の後に高額料金を請求されるケースが発生しています。

もし、請求額に納得がいかない場合は、現場から警察（113番、又は112番）に電話して介入を求めることも必要です。クレジットカードで支払った場合は、二重、三重に引き落とされる恐れがありますので、二次被害の未然防止のためにカード会社に連絡するようお勧めします。

<ミサンガ売り>

スペイン広場やコロッセオ、ナヴォーナ広場、トレヴィの泉などの観光スポットで、紐状の飾り物（「ミサンガ」）を手首に巻き付けられ、その代金と称して高額な金を請求されたり、代金を払おうとして財布を出したところ、全ての紙幣

を強奪される事案が発生しています。

<偽警官>

警察を名乗る人間が、警察手帳らしきものを見せながら近づき、パスポートや財布の提示を求め、財布からクレジットカードや現金を抜き取るという事案が発生しています。

具体的な事例として、観光客風の犯人が地図を広げて道を歩く観光客に道を聞きます。すると、犯人の仲間の偽警察官が警察手帳のようなものを一瞬見せ、観光客に対し、彼から今麻薬を購入しただろうと嫌疑をかけ、麻薬検査などと称してまず、仲間の犯人の財布等を確認します。その仲間がごく自然にこの偽警察官に財布を委ねるのを見ているため、旅行者も財布や旅券の提示に抵抗せず要求に応じ財布を渡すと、財布内を検査している間に素早くクレジットカードや現金を抜き取る、といったものです。

また、偽札を持っていないかチェックしているなどし財布を提示することを要求するほか、巧みにカード類の暗証番号を聞きだし、現金を引き出される事例もあります。

対応策としては、検査を要求された場合には、明らかに警察官であると判明しない限り（警察手帳（バッチ）を確認する等）応対しない、「路上では提示できない。警察署に行きましょう。」と言うなど断固とした態度が必要でしょう。その際、間違っても POLIZIA 又は CARABINIERI と車両に明記されている車以外の車には同乗しないことです。市内であれば、通常、警察署は歩いて行ける距離にあります。多少でも疑いがある場合は、歩いて警察署に行くという意思表示をしましょう。あるいは、113 番 POLIZIA 又は 112 番 CARABINIERI に直接電話しましょう。偽警察官であれば、警察に電話した時点で逃げ出すことでしょう。

<パンク強盗等>

タイヤをパンクさせられた車を知らずに運転しているところに、パンクを仕掛けた犯人が善意であるように装い、寄って来てパンクしていることを知らせたり、サイドミラーがぶつかりミラーが割れたと言いがかりをつけるなどして、車の停車を求めます。停車してタイヤや損傷箇所の点検をしている間に、車内の貴重品を持ち逃げされるケースや、降りたところをオートバイに取り囲まれ、身につけている貴重品を強奪されるケースが見られるので注意が必要です。ローマ市内でも発生が確認されているほか、特に、シチリア、ナポリ方面にこの手口の犯罪が

多いようです。車を走行中に停車を求められても安易に車外へ出ず、走行中は車のドアロックの励行をお勧めします。

○列車内にて

列車内では、コンパートメントで荷物棚に鞆を載せたまま眠ってしまったり、座席に荷物を置いたままトイレに立っている間に、置き引きが発生しています。寝台列車で枕元に貴重品袋を置き、目が覚めたら無くなっていたという例もあります。車両の部屋に個別の鍵があっても信用はできません。また、座席から離れた荷物置き場に置いた荷物が出発前に消えていることもあります。最近では大きな荷物を車内に運び込むのを手伝うように見せかけて、手荷物から貴重品を抜き取るという手口もあります。手伝いが不要な場合には強く断る必要があります。出発間際に列車の外から声をかけられ、注意をそらされている間に、列車の中にいる仲間に貴重品を盗まれる事案も多く発生しています。

3. 交通事情と事故対策

(1) 一般的な交通事情

交通マナーについても、日本と比べて良いとは言えません。車が方向指示器を点灯させずに行う無理な割り込みや追い越し、突然の右左折や停車などが日常的にみられます。車・二輪車・歩行者ともに信号を守らないこともあり、また、車や二輪車が一方通行の道を逆行して来たり、二輪車が歩道を走行してくることもまれではありません。高速道路で、出口を間違えた車がバグしてくることもあります。また、路上駐車が非常に多く、周りを確認しないまま急にドアを開けることもあります。運転又は歩行の際には、常に細心の注意が必要です。

鉄道、地下鉄、バス、タクシーなどの公共交通機関は、頻繁にストを行います。また、ガソリンスタンドがストを行うこともあります。これらの情報は、新聞やローマ市交通局（a t a c）のホームページ(<http://www.atac.roma.it>)などで得ることができます。

(2) 交通事故

車同士や車と二輪車の出会い頭の事故が多く、原因としては、優先通行や一時停止のルールが守られていないことが多いようです。事故が発生したら、被害者の安全を確保する、警察・救急に連絡する、保険会社に連絡する等、迅速に対応する必要があります。

なお、レンタカーはほとんどがマニュアル車です。保険制度は発達しており、加入も容易です。

(3) 車両通行規制ゾーン (Z. T. L.)

ローマ市内中心では車両通行規制が行われています。月～金曜日の06:30～18:00及び土曜日の14:00～18:00の間などの規制時間にこの規制ゾーンに侵入すると、後方から監視カメラで車両番号の写真が撮られ、後日罰金の支払い請求が送られてきます。これを知らずにレンタカーを借り、何度も通過したために、後に多額の罰金の支払いを請求されるケースが発生しています。

ローマ市内の詳しい規制区域や規制時間は、ローマ市交通局（a t a c）のホームページ(<http://www.atac.roma.it>)上に掲載されていますので確認下さい。

4. 最近の治安状況

イタリア内務省の統計によると、2016年の犯罪認知件数は約250万件となっています。前年と比較すると、7.99%減少していますが、スリが約16万件（前年比6.39%減）、ひったくりが約17万件（前年比6.22%減）と多数の発生が依然認められることから、イタリア滞在中これらの犯罪に対して用心と予防が必要です。また、近年、ローマを始めとする都市部において、公共工事入札等に伴う利権の獲得を狙うマフィアの進出が著しいほか、近隣諸国の犯罪組織が浸透し、大量の薬物の密輸、路上売春等を行っていることが確認されており、治安状況の悪化が懸念されています。さらに、リビア等近隣国における法執行機能の不全等を背景として、島嶼部を含むイタリア南部に、多数の移民が短期間で押し寄せ、特別在留許可を得た者を含む多数のアフリカ系移民が都市部に引き続き流入している状況も確認されています。

(1) 犯罪組織（マフィア等）の存在

イタリアには、南部諸州を基盤とするマフィア等の犯罪組織が存在しており、社会の各層に浸透しつつ、薬物取引、売春、賭博、企業・商店に対する恐喝、高利貸しのほか、密輸、不法入国の手引きなどの違法行為により巨額の違法収益を得ているといわれています。最近、マフィアは、イタリア各地、とりわけ、首都ローマや、北部の大都市部周辺に勢力を拡大させており、治安当局が警戒を強化しています。

このほか、最近では、外国の犯罪組織が、イタリア国内で勢力を拡大し、都市部を中心に様々な犯罪を行っているともみられており、治安当局も警戒を強めています。

(2) 違法薬物の蔓延

イタリアへは、中南米、北アフリカ、東欧などからの違法薬物が、大量に流入していることが確認されていますが、最近では、若年層に対しても急激に蔓延しており、深刻な社会問題となっています。都市部では、薬物購入資金の入手を目的とした強盗事件等も多発していますので、薬物の密売が行われているとされるエリアや盛り場などには、近づかないようにしてください。

(3) 不法滞在外国人の増加

密入国や不法残留によりイタリアに不法滞在する外国人が大きな社会問題となっています。不法滞在外国人の中には、職が得られないなどの事情により、比較的安易に犯罪行為に関与するものも多く見られることから、注意が必要です。

(4) 国際テロ情勢

近年、シリアやダッカでの日本人が殺害されたテロ事件や、イギリス、フランス、ベルギー等、欧州でのテロ事件などが頻発しています。また、イタリアに関してもテロ組織による攻撃予告がインターネット上で行われる等、大規模テロ事件は発生していないものの、当地は象徴的な標的とされていると見られ、治安当局が常時警戒を強化しています。

5. 緊急連絡先

イタリア全土共通

国家警察（救急車要請も可）	1 1 3
軍警察（救急車要請も可）	1 1 2
消防車	1 1 5
救急車	1 1 8

ローマ市

県警察本部	0 6 - 4 6 8 6 1
テルミニ駅代表	0 6 - 4 7 3 0 1
テルミニ駅鉄道公安室	0 6 - 4 7 3 0 - 6 4 3 4（鉄道警察）
	0 6 - 4 7 3 0 - 6 3 1 8（軍警察）

在イタリア日本国大使館 0 6 - 4 8 7 9 9 1

在バチカン日本国大使館 0 6 - 6 8 7 - 5 8 2 8

在ミラノ日本国総領事館 0 2 - 6 2 4 - 1 1 4 1

（イタリア大使館及びミラノ総領事館は時間外や休館日に緊急の案件がある場合は、24時間対応できる体制になっています。）

6. 緊急事態に備えての心構え

大規模災害やテロの発生などの緊急事態発生時には、日頃からの安全対策、心構えが肝要です。以下に平素の準備と心構え、緊急時の行動について必要な諸点をとりとめましたので参考にし、緊急事態発生時には落ち着いて行動されるよう心掛けてください。

(1) 緊急事態に備えて日頃から準備

平時の準備と心構え

<連絡体制>

○日本のご家族には自宅の連絡先だけでなく、所属先や友人など、複数の連絡先を伝えておきましょう。緊急事態発生の際には、どの順番でどこに連絡する、などをあらかじめ打ち合わせておくと混乱が防げます。

○大使館に在留届を提出してください。転居や帰国の際にも届出をしてください。
緊急事態発生時には、大使館から在留届を元に安否確認、情報提供等を行います。届出の情報は最新の状態にしておく必要があります。

<携行品、非常用物資の準備>

○パスポート、現金、クレジットカードなどは、直ちに持ち出せるように保管しておいてください。

○非常用食料、飲料水、医薬品などは、最小限10日分位が必要とされています。

<避難場所>

○自宅、勤務先が被害に遭った際や電話が通じなくなった際などに家族や同僚と落ち合う場所を決めておきましょう。

(2) 緊急時の行動

<基本的な心構え>

○緊急事態が発生した場合には、あわてず状況を把握するために現地・海外報道、衛星放送の受信などにより情報収集、情報共有を心掛けてください。

○平静を保ち、騒動に巻き込まれたり、群集心理に巻き込まれることがないように、危険な場所には近づかないよう注意してください。

<大使館への通報>

○邦人の被害などに関する情報を入手した場合には、大使館までお知らせ下さい。また、自分や家族、その他の邦人の生命、身体に危険が及ぶ恐れがあるときは、その状況を具体的に大使館までお知らせください。

7. 緊急時の言葉

- 「助けて」 Aiuto! (アイウート)
- 「泥棒」 Al ladro! (アル ラードロ)
- 「火事だ」 Al fuoco! (アル フオーコ)
- 「警察を呼んでください」 Chiamate la polizia!
(キアマテ ラ ホ°リツィア)
- 「救急車を呼んでください」 Chiamate un'ambulanza!
(キアマテ ウナンブ°ランツァ)
- 「病院に連れて行ってください」 Mi porti all'ospedale.
(ミ ホ°ルティ アッロスペ°ダ°レ)
- 「緊急事態です, 急いでください」 Faccia presto, c'è un'emergenza.
(ファツチャ フ°レスタ チェ ウネメルジ°エンツァ)
- 「誰か英語を話せますか」 Qualcuno parla inglese?
(クアルク°ノ ハ°ルラ イング°レーゼ°)

在イタリア日本国大使館

Ambasciata del Giappone in Italia

住 所 : Via Quintino Sella, 60 00187 Roma

電 話 : 06-487-991

F A X : 06-487-3316

ホームページ : <http://www.it.emb-japan.go.jp>

(日本語) http://www.it.emb-japan.go.jp/index_j.htm

領事窓口時間 : 9:30-12:45, 14:15-16:30